

# 特集

## 奥州宇宙遊学館を拠点とした市民の交流

亀谷 收（奥州宇宙遊学館）

### 1. はじめに

奥州宇宙遊学館は、岩手県奥州市の財源で運用される学習館（実質は科学館）です[1]。元々隣接する国立天文台水沢地区にありました旧緯度観測所本館（1921年建設）が老朽化して解体する話が出た時に、解体せずに科学館として使いたいとする市民運動が起こり、最終的に奥州宇宙遊学館として2008年4月に開館しました。コロナ禍の為に、一時期、閉館せざるを得ない時もありましたが、現在は、来館者がコロナ禍前に戻りつつあります。2024年4月には、開館16年を迎え、6月16日には来館者25万人のお披露目式を行う事が出来ました。

今回の東北支部研究会のテーマ「みんなと共有する天文学・みんなに支えられる天文学～天文学と社会の新たな関わり方～」と奥州宇宙遊学館の成り立ちと現状は、共通するところが色々ありますので、上記のテーマに即して、幾つかのトピックについて報告させていただきます。

### 2. みんなに支えられる奥州宇宙遊学館

約2年前に私は館長に迎えられて内部の様子を知るにつれて、奥州宇宙遊学館は、実に多くの方々によって支えられているのが分かってきました。以下に、その中の主なグループについて述べさせていただきます。

#### 2.1 イーハトープ宇宙実践センター

NPO法人「イーハトープ宇宙実践センター」（大江昌嗣理事長）は、20年以上に渡って、一般市民、次代を担う子供たちと教育者たちに対し、天体観望や宇宙科学の現地指導と情報提供を行い、宇宙及び天文学、科学技

術、文化、歴史、農業などの分野における人材育成のための基礎的学習活動に寄与することを目的とする法人です[2]。2008年より奥州市から委託されて、奥州宇宙遊学館の指定管理運営を行っています。20年以上にわたる市民との関わりがあるので、それをベースとして、現在の奥州宇宙遊学館が人々の集う拠点として機能している面があります。

以下の2グループは、イーハトープ宇宙実践センターが関わっています。

#### 2.2 ホミネスカ

星空ナビゲータ「ホミネスカ」は、NPO法人イーハトープ宇宙実践センターの会員の中の数名のアマチュア天文家が地域に根付く活動を行い、「出張観望会」を行うチームです。毎月第二土曜日遊学館前で実施する定例観望会にも主力メンバーとして参加しています。

#### 2.3 イーハトープサイエンススクール

元理科教師や元エンジニア、天文学者など約10名が講師として登録し、奥州宇宙遊学館だけでなく、近隣に出向いて科学の楽しさを教える「イーハトープサイエンススクール」というものがあります。小学生、中学生はもとより親世代を含む一般の方も対象に、科学についてやさしく学び理解を深めていく活動を展開しています。

#### 2.4 国立天文台

国立天文台水沢VLBI観測所では、構内で最初（1899年）に作られた旧眼視天頂儀室（文化庁有形登録文化財に登録）の修繕を図1のように2023年に行いました。その際、国立天文台の蜂須賀さんを中心に調査も行わ

れました。その結果、幾つか興味深い事が分かってきました。例えば、鉄製の箱（イギリス製）で作られていて、その外が木製の構造だそうです。1899年完成なので、現存する国内でも古い金属製の建物になるようです。この結果を受け、奥州宇宙遊学館では、7月以降、特別企画「天文台未公開スペースを含む『ノスタルジックツアー』」ということで、国立天文台職員の協力の元で、旧眼視天頂儀室のツアーを実施する事になりました。



図1 改修時の旧眼視天頂儀室

例年国立天文台水沢 VLBI 観測所、奥州市、奥州宇宙遊学館/NPO 法人イーハトーブ宇宙実践センターが共同主催で実施しているいわて銀河フェスタは、例年8月下旬に行っていましたが、昨年度の猛暑の中での実施した反省から、今年度は気温の落ち着いた10月12日に実施する事になりました。今年、国立天文台水沢 VLBI 観測所の前身である臨時緯度観測所創立125周年になることから、上記の旧眼視天頂儀室も含めて、市民と共に歩んできた国立天文台水沢キャンパスの歴史にスポットをあてたテーマでの開催を検討しています。多くの方々のご参加をお待ちしています。

### 3. 奥州宇宙遊学館を拠点とする皆の活動

#### 3.1 日本宇宙少年団水沢 Z 分団

公益社団法人日本宇宙少年団水沢 Z 分団（分団長は現在4代目で亀谷収が担当）は、誤解を厭わなければボーイスカートの宇宙版

と言っても良いかもしれません。日本国内に140程度ある分団の中の一つです[3]。おもに小学生から高校生までの団員約45名が、毎月1回程度、宇宙や科学に関連する活動を行っています。水ロケットの作成と打ち上げは、毎年かならず行っています。元々、奥州市（合併する前は、かつては水沢市）と国立天文台などが約31年前に協力して、理科教員やアマチュア天文家などの市民の協力を得ながら立ちあげました[4]。これまで延べ1500名もの団員と共に活動してきました。2023年11月には、図2に示しますように10周年を迎えた花巻分団と共に30周年の記念イベントを行い、記念誌も作成しました。奥州宇宙遊学館と直接の関係はありませんが、活動で奥州宇宙遊学館を使用することがあり、また、団員、保護者、リーダーは、奥州宇宙遊学館で開催するイベントにかなり頻繁に参加しています。



図2 水沢 Z 分団 30 周年記念イベント

#### 3.2 木村栄の書の特別展

奥州宇宙遊学館を拠点としたイベントとして、2024年3月に特筆すべきものがありました。地元の胆江日日新聞社が実施した特別企画展「木村栄の書展」の開催です。旧緯度観測所初代所長の木村栄(きむらひさし)は、1970年(明治3年)に金沢に生まれ、29歳で奥州市(旧水沢町)に赴任してから、1941(昭

和 16 年) 春に退職するまで、テニスや宝生流謡、卓球など、様々な文化を水沢の地に伝えました。中でも、書は、幼少の時から堪能で、水沢 VLBI 観測所が管理している木村榮記念館には、4 歳と 8 歳の時の書のレブリカが展示されています(本物は、奥州市水沢図書館に展示)。所長時代は、木村は、旧暦の誕生日である 9 月 10 日には、集中的に書を書き溜め、多くの知り合いに渡していたと言われています。奥州市内にかなりの数の書が残っているとされていました、系統的に展示した事は、これまでありませんでした。



図 3 木村榮の書展のポスターの一部 [5]

今回、緯度観測所時代の職員の研究で実績をあげられている馬場幸江さん(現、名古屋大学)と胆江日日新聞の児玉さんがタッグを組んで、市内から多くの木村の約 20 もの書を集め、奥州宇宙遊学館で展示会および講演会等を行いました(イーハトーブ宇宙実践センターは、協力)。ポスターの一部を図 3 に示します。写真にある、書をしたためている木村所長は、プロの書家からみると、驚きがあるそうです。あんな太い筆を易々と使いこなしている木村の書家としての力量は相当なものだそうです。幼少の頃から使っている「千山」という雅号が木村の書の目印になるようで、市内から多くの書が集まりました(図 4

参照)。奥州宇宙遊学館として、書の展示会は初めてのことでしたが、普段は天文学と無縁だと思っておられるような多くの市民も奥州宇宙遊学館に足を運ばれ、お陰様で 3 月の入場者数では、2024 年が過去最大になりました。プロの書家の方の専門的な解説によって、Z 項の発見者として有名な木村所長の書家としての面も顕らかになり、とても意義深いものになりました。有難い事に、参加者の中には、後日、ご自分の天体観望用の天体望遠鏡を寄贈して下さった方もおられました。



図 4 木村榮の書展の様子

### 3.3 地元の産業とのコラボレーション

奥州市には、半導体開発の重要企業や南部鉄器製作の老舗など、半導体や金属に関連する様々な地元の産業があります。宇宙の研究には、最新の検出装置が必要で、宇宙をキーワードに 3 者の魅力に迫っていくコラボ企画のトークショーが 2024 年 6 月 9 日に奥州宇宙遊学館で実施されました。こちらにも、宇宙に余り関わりを持たない金属産業の関係者が多く参加され、座談会は、興味深いものになりました。今後の進展が楽しみです。

### 4. その他

2 年ほど前に新しい奥州市長に交代してから、奥州市は、幾つかの新しい試みがされているようです。その一つが、奥州市のマスコットキャラクターをつくりだしたことです。奥州市出身のマンガ家の吉田戦車さんがキャラクターを考案したそうで、彼の作り出した「かわうそくん」のキャラクターを彷彿させ

るゆるキャラです。奥州市のマークをあしらった腹巻を着て、南部鉄瓶を持っています。頭にはなぜか O の文字が……。熊本県のくまモンまで知名度が上がるかどうかはわかりませんが、奥州市を調査している宇宙人という設定らしいので、宇宙に関係している奥州宇宙遊学館の者としても、このゆるキャラが宇宙に広まってくれるようにささやかながら協力したいと思っています。そのために、奥州市の担当部署に許可を得て、キャラクターを載せさせていただきます（図 5）。

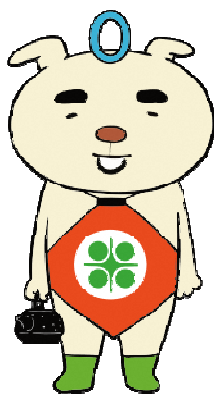


図 5 おうしゅうたろう [6]

## 5. まとめ

みんなに支えられる奥州宇宙遊学館は、この 2024 年 4 月に開館 16 周年になり、6 月 16 日に入場者 25 万人記念式典を実施しました。

奥州宇宙遊学館主催の活動としては、国立天文台にも協力をいただきながら、「本物を見せたい！」という考え方があります。

企画展やいわて銀河フェスタ、サイエンスカフェ（2 か月に一回実施）、毎月第二土曜日実施の観望会、イーハトーブサイエンススクールによる子供会などへの出前イベント、小中高などの学校の児童・生徒案内、他 天文学や科学の魅力を伝えていく様々な活動を実施しています。

奥州宇宙遊学館を拠点とするみんなの活動として、日本宇宙少年団水沢 Z 分団の活動や、

音楽会、新聞社主催の企画展（木村の書）、放送大学授業、地元の産業と宇宙のコラボ企画等も行っています。

まだまだ奥州宇宙遊学館の認知度は高くありませんが、宇宙に気軽に関われる市民の交流の場が広がるようにしていきたいと考えています。

本稿を纏めるにあたり、国立天文台水沢 VLBI 観測所の蜂須賀一也氏に大変お世話になりました。心から感謝致します。

## 文 献

- [1] 奥州宇宙遊学館  
<https://uchuyugakukan.com/>
- [2] NPO 法人イーハトーブ宇宙実践センター  
<https://uchuyugakukan.com/isac/>
- [3] 公益財団法人日本宇宙少年団  
<https://www.yac-j.or.jp/>
- [4] 日本宇宙少年団水沢 Z 分団  
<https://zmizusawa.amebaownd.com>
- [5] <https://uchuyugakukan.com/>特別企画展「木村栄の書展・緯度観測所初代所長」
- [6] 奥州市おうしゅうたろうの部屋  
<https://www.city.oshu.iwate.jp/johokan/5716/index.html>



亀谷 収